

広島派遣後の 活動報告

被爆 72 周年我孫子市平和祈念式典



我孫子市平和都市宣言の読み上げ



千羽鶴の奉納



リレー講座体験での発表



湖北台中学校
古川 希さん

派遣後、8月12日（土）に行われた我孫子市平和祈念式典に参加し、派遣中学生として紹介されました。そこで派遣の報告を行いました。また、参加者皆さんの先導として我孫子市の平和宣言を読み上げました。

平和の記念碑に折り鶴を奉納しました。

式典後の「リレー講座の体験」でも、はじめに派遣中学生として紹介され、一人ずつ派遣を通して感じたことを発表しました。私は、「平和の大切さについて、多くの人に考えてもらえるようにお願いしながら、今、自分に何ができるのか考えたい」と伝えました。

被爆 72 周年我孫子市平和祈念式典

8月12日、我孫子市原爆被爆者の会との共催により、被爆72周年平和祈念式典を開催しました。式典には約120名の方が参列し、原爆犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、核兵器の廃絶と平和を祈りました。今年度の式典では、初の試みとして司会を歴代の派遣中学生に担ってもらうなど、若い世代が中心となって平和事業を展開していけるような工夫がなされました。

平成29年度広島派遣中学生は式典において市民の前で紹介され、代表として団長から派遣の感想を報告しました。また、当日の参列者とともに我孫子市平和都市宣言の読み上げを行った後、派遣中学生の代表2名が千羽鶴を奉納し、それぞれが献花を行いました。

さらに、式典後には市内の小学校で行われているリレー講座を一般の来場者に向けて実演し、その中で派遣中学生ひとりひとりが平和への思いを述べました。

◆ 式典スケジュール

平成28年8月13日（土）9時30分から 手賀沼公園「平和の記念碑」前

進行：我孫子市平和市民会議委員 寺原 正一郎
大島 万由子

時 間	内 容
9：30	開式
9：32	詩の朗読「ピカドン」（日山 久美子） 朗読：平成24年度長崎派遣中学生 小谷 典子
9：37	参加者全員による黙祷
9：39	式辞 主催者／原爆被爆者の会 会長 宮田 将則 主催者／我孫子市長 星野 順一郎
	ごあいさつ 来賓／我孫子市議会議長 坂巻 宗男 来賓／千葉県議会議員 今井 勝 来賓／千葉県議会議員 水野 友貴
	紹介 我孫子市議会副議長 西垣 一郎、我孫子市副市長 青木 章 我孫子市教育委員会総務部長（教育長代理） 小島 茂明
10：00	広島派遣中学生紹介・報告 ① 派遣12人紹介 ② 団長挨拶・報告 服部 琉佳
10：10	我孫子市平和都市宣言読み上げ（広島派遣中学生を中心に全員で）
10：15	千羽鶴の奉納 奉納：派遣中学生 桐山 悟至、西村 百夏
10：20	献花（代表～派遣中学生～参加者全員）
10：35	閉式



詩の朗読



広島派遣中学生紹介



代表挨拶・報告



平和都市宣言



千羽鶴の奉納



献花



リレー講座紹介事業（式典後）

◆ 我孫子市長 式辞

広島と長崎に原子爆弾が投下されたあの忌まわしい日から72年目を迎えました。原子爆弾は、一瞬のうちに多くの尊い生命を奪っただけでなく、辛うじて一命をとりとめた人々にも、心身共に生涯消えることのない深い傷を残しました。原爆並びに先の大戦で犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今年7月核兵器の使用や保有などを法的に禁ずる核兵器禁止条約が国連で採択されました。広島・長崎への原子爆弾投下以降、核兵器を違法とする条約が国連で採択されるのは初めてのことで、「条約成立には日本の被爆者の訴えが原動力となった」と国連条約交渉会議の議長は語り、被爆者の熱い思いによって、核兵器廃絶への新たな出来事となりました。

日本は、「核兵器保有国が参加しなければ、残念ながら交渉会議に建設的かつ誠実に参加することは困難」とし、不参加となりましたが、私は、これからも核兵器のない世界が実現されることを強く願い、平和事業を推進してまいります。

市は先月、我孫子市原爆被爆者の会が所有する広島・長崎原爆パネル写真全66点の寄贈を受けました。

このパネル写真の一部は、毎年8月に生涯学習センター「アビスタ」で開催される「原爆写真と平和祈念の折り鶴展」にて展示されているもので、原子爆弾投下直後の生々しい傷跡を伝える大変貴重なものです。今後も平和の尊さを後世に伝えるための資料として、広く活用してまいります。

また、13回目となる広島・長崎への中学生派遣では、今年も市内6校の代表生徒12名とともに、8月5日から7日まで広島市を訪問し、平和記念式典に参加しました。

全国の被爆者の平均年齢は81才を超え、「被爆者がいない時代」を迎える日が確実に近づいています。当時の悲惨な記憶と記録を、私たちがしっかりと継承していく時が迫っていること、また、同じ過ちを繰り返さないことが大切であると、広島平和記念式典に参列して、改めて思いを強くいたしました。

我孫子市は今後も、平和宣言都市として、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、一步でも前進するよう、多くの人々と連携の輪を広げていくことに、全力を尽くしてまいります。

結びに、日頃から市の平和事業にご尽力いただいております我孫子市原爆被爆者の会の皆様方のご努力に感謝申し上げますとともに、本日、ここにご臨席の皆様方のますますのご健勝を心からご祈念申し上げまして、式辞といたします。

平成29年8月12日

我孫子市長 星野 順一郎

◆ 広島派遣中学生代表 挨拶・報告

私たちは、8月5日から7日までの2泊3日で広島市平和記念式典への参列や広島市平和記念資料館の見学を主に行い、被爆者の中西さんのお話などを聴くことができました。実際に広島へ行ってみないとわからないこと、見たり聞いたりして戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学ぶことができました。2泊3日という短い期間でしたが、派遣仲間同士もとても仲良くなり、あっという間に時間は過ぎてしまいました。これで派遣中学生は終わってしまいますが、私たちから新しい平和事業への取り組みを開始したいと思います。このあとも12月に報告会や、リレー講座などがあるので、この想いを忘れずに若い世代へと伝承していきます。これで派遣報告を終わります。

平成29年8月12日

我孫子市中学生広島派遣団 団長 服部 琉佳



広島・長崎派遣中学生リレー講座「未来を生きる子どもたちへ」への参加

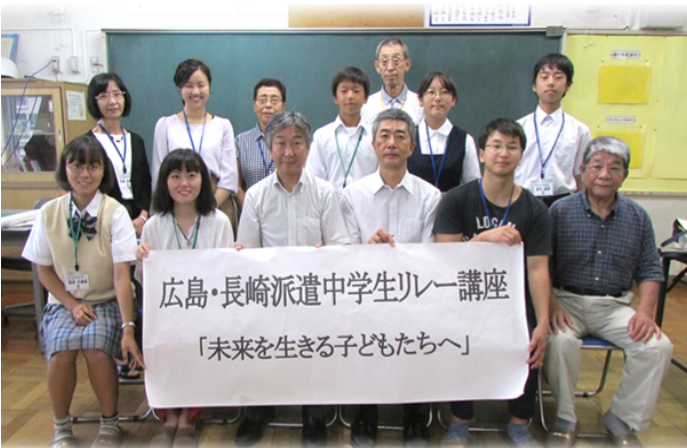


久寺家中学校
吉田 直輝さん

また、夏の広島派遣から帰ってきた2学期に実施した「広島・長崎派遣中学生リレー講座」に参加しました。

このリレー講座は、平成27年、戦後70年平和事業としてスタートしたもので、私達より先に、これまでに広島や長崎に派遣され、今では高校生や大学生となった歴代の派遣中学生の先輩たちが市内の全小学校の6年生の児童のみなさんに平和をテーマにした授業をするものです。

1時間の授業の中で、派遣体験のこと、原子爆弾のこと、身近な平和について考え、授業の最後には「平和な世の中にするために今日から自分ができること」をテーマに平和の木の葉っぱに平和のメッセージを記入します。この葉っぱに書いた平和のメッセージを授業が終わった後、一本の木が描かれた模造紙に貼り付けて、各小学校の「平和の木」を完成させて、今では各学校に貼りだしていただいています。



久寺家中学校
吉田 直輝さん

私は新木小学校のリレー講座に参加しました。このリレー講座を行ってみて、授業を受けた小学生が真剣に原爆について、そして平和について考えている姿を見て、これからもこの授業を続けていきたいと思いました。

また、私がリレー講座の授業をして感じたことは、小学生からの質問が多く出され、戦争や原爆への関心が高いということでした。



湖北台中学校
桐山 悟至さん

悲しみを無数に生んだ原子爆弾が、2度使用されただけでなく、現在もなお、世界には、約1万6千発あるといわれています。

しかも、広島に投下された原爆の威力をはるかに超える水素爆弾を保有している国があります。現存する世界中の核兵器は、地球上の全ての生命を何度も壊滅させることができる分量と言われています。

しかし、核兵器が人間の手でつくられたものである限り、人間の手によってそれを縮小し、廃絶することができないはずがありません。

この世界から戦争、核兵器をなくすために、私たちも何ができるのかを考え、行動に移していきます。

各中学校での報告

広島派遣後、派遣中学生は各々の中学校の生徒に対し派遣報告を行いました。

総合学習の時間や全校集会の際に時間を設けるなど、報告の機会は各中学校によって様々ですが、長崎派遣の体験を通して感じた、戦争・原爆の恐ろしさ、平和の大切さを派遣中学生それぞれの言葉で同世代の在校生に伝えることができました。

◆ 報告の様子



久寺家中学校での報告の様子



湖北中学校での報告の様子

平和新聞の作成

広島派遣で学び、感じてきたことを次の世代に伝えていくために、派遣中学生たち自ら平和新聞を作成しました。平和新聞では、実際に広島で見たことや聴いたことについての感想を掲載し、今後のリレー講座などで活用していきます。

◆ 新聞作成の様子



「平和の集い」での報告に向けて

12月に実施する「平和の集い」での報告会に向けて、派遣中学生は2学期に数回集まり、発表内容の打合せや発表の練習を行いました。

報告会での発表内容は、グループや学校ごとに話し合い、来場された市民の皆さんにどうしたら広島派遣を通して自分達が感じた思いを伝えられるか考えながら作り上げました。

◆ 練習の様子



平和の集い～我孫子から平和を願う～

12月3日（日）に、けやきプラザ2階ふれあいホールで「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。平和の集いには約200人が集まり、8月に広島に派遣された中学生による派遣報告などに耳を傾けました。

また、11月28日（火）から12月3日まで、「我孫子から平和を願う展」としてけやきプラザ2階のギャラリー2では広島・長崎原爆パネル写真の展示、アビシルベでは、派遣中学生が作成した平和新聞など、我孫子市の平和事業を紹介する展示を行いました。



◆第1部 13時30分～

平成29年度広島派遣中学生による報告

派遣中学生達の広島での活動の様子や、現地を見て・聞いて・感じたことをスライドを交えながら報告し、自分たちの言葉で平和への思いを語りました。



◆第2部 14時50分～

演劇「夏雲」 我孫子中学校演劇部

我孫子中学校演劇部が、広島を舞台に原爆の恐ろしさを伝える演劇を上演しました。

<内容>

中学の宿題のため広島へ行くことになった中学生たち。その中の一人の女の子が主人公。その子の祖母は今も広島で一人で生活している。しかし、そのことを両親は秘密に指定板。祖母は死亡したようになっていたのだ。広島行きをきっかけに秘密を打ち明ける両親。祖母は広島で被爆しており、被爆二世・三世ということをかくすために祖母の存在も秘密にしていたのだ。

広島で、祖母を訪ねる主人公。祖母は広島女学院の教師をしていて被爆したのだ。祖母はかたくなに孫の存在を認めないが、被爆当時の話なら話すという。

被爆時の祖母の回想

回想を終え、祖母は被爆者だったことを隠さず生きようと決意する。
中学生たちも、広島のことを深く胸に刻んで生きようと決意する。



